



SDGs 達成に向けた取組み

SDGs 視点による、小・中・高校生への森林・林業教室の実施 (木製 SDGs 普及啓発用看板の贈呈)



目的・背景

少子高齢化による後継者不足や、若者の流出などから、地元の森林の一部荒廃が開始された中、SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない！四国中央（宇摩）の森を目指す」をコンセプトとし、「森林文化の継承・持続可能な森林経営」を具現化し、持続可能な「ふるさとの山づくり」を進めることを最終目的に、将来を担う若者づくりから取り組んでおります。

具体的な取組内容

①県立土居高校での森林林業教室

- (1) 日 時 令和 5 年 9 月 19 日 and 10 月 10 日
- (2) 場 所 土居町内の公有林 and 加地工務店の建築現場
- (3) 教育内容 森林・林業の現状や公益的機能を理解してもらうとともに、林業の高性能機械化によるイノベーション及び木材住宅の炭素固定機能の高さを、地元高校生に身をもって体験してもらいました。



土居高校 森林林業教室



令和 5 年 10 月 10 日土居高校林業体験学習の際に行われたモニュメント贈呈の様子

②県立川之江高校での先輩塾

- (1) 日 時 令和 5 年 11 月 7 日
- (2) 場 所 川之江高校の教室 及び 運動場
- (3) 教育内容 川之江高校の卒業生で、素材生産業者の若手社員を招き、林業の仕事場の体験談を披露してもらい、持続可能な林業経営や、森の維持保全管理に理解を求めるとともに、高校生がドローンを操作し、森林調査の現状も体験してもらいました。



川之江高校 先輩塾

③四国中央市立中曽根小学校での木工教室

- (1) 日 時 令和 5 年 11 月 9 日
- (2) 場 所 中曽根小学校の体育館
- (3) 教育内容 地元の老人クラブからなる「嶺南木工会」の協力を得て 3 世代交流の輪を進めるとともに、鋸・金槌を使用して木材との触れ合いをすることにより、森林の大切さを学びます。



中曽根小学校 木工教室

④四国中央市立新宮小中学校での森林林業教室

- (1) 日 時 令和 5 年 11 月 16 日
(2) 場 所 新宮小中学校 学有林
(3) 教育内容 当該学校で先輩方が保育してきた学有林で実際の間伐作業をライブで見学するとともに、直接、間伐作業の一部を手伝い、伐採木の枝を鋸で切断するなどして持ち帰った円盤状の板で、12 月には木作品を作成します。これらのことにより里山や、山村地域で生活することの面白さを伝えるとともに、新宮地区の木（ミツマタ等）が、かつて和紙の原料となり、現在の「日本一の紙のまち」を支えてきた経緯を認識してもらい、自信を持っていただくことができました。



新宮小中学校 森林林業教室

成果

- ①愛媛新聞の土居高校生のインタビュー記事（R5.9.24）のとおりに、「将来の選択肢として考えたい」との声が届きました。
②川之江高校生からは、「ドローンの操作が楽しかった。四国中央市の森林の豊かさを学んだ」との声が届きました。
③中曽根小学生からは、「木作品を親に見せるとびっくりしてくれた」との声が届きました。
④新宮小中学生からは、「鋸の操作は怖かったけど、作品ができて良かった」等の反響がありました。
なお、土居高校、川之江高校、新宮小中学校には、木製の「SDGs 普及啓発用木製看板」（四国中央市の山林から伐採し加工した）を森林組合から寄贈し、今後学校が行う SDGs に関する活動や社会貢献活動に、シンボリックに活用してもらおうこととなりました。

担当者の思い

例えば、川之江高校のホームページには、教育方針に「国際的な視野に立ち…」、そして指導目標には「郷土を愛し、地域社会の発展に貢献する」とあります。SDGs 普及啓発用木製看板を贈呈する際には、各学校に、林業をすること自体が持続可能な国際的開発目標の 17 目標のうち実に 14 目標に関連がある事を、学生の皆様に伝授することができたと自負しております。今回は、四国中央市内に数ある学校のうち 4 校に留まっているので、今後とも SDGs の普及と、森林林業の果たす役割を説いてまいりたいと考えているところです。

〈宇摩森林組合 常勤理事 村上 尚哉〉

